

教育・研究業績書

<p>診療科名 越谷病院救急医療科</p>		
<p><教員の紹介></p> <p>教授 池上 敬一 准教授 山田 浩二郎 講師 杉木 大輔</p>		
<p>I 教育活動</p>		
<p>教育実践上の主な業績</p>	<p>年月</p>	<p>概要</p>
<p>① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）</p>		
<p>1. シュミレーション教育</p>	<p>2004年～現在</p>	<p>研修医教育には従来よりミニレクチャーを行っていたが、それに加え、高機能シュミレーターを用いたシュミレーションを取り入れた。それ以後研修医に対する教育プログラムを変更し、テーマ毎に事前学習、必要なスキルのチェック・実習、シュミレーションを行い、救急初期診療能力の向上を目指した内容としている。</p>
<p>2. Work based learning</p>	<p>2008年～現在</p>	<p>レジデント、看護師対象のコースは現在各地で開催されているが、それを実際の現場で実践することは難しい。それらを職場で実践するためには、現場の指導医がシュミレーション、初療室でファシリテーターとなる必要がある。当科では、それを実践し、ファシリテーターの養成も予定している。</p>
<p>② 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>1. シュミレーション用シナリオ</p>	<p>2004年</p>	<p>シュミレーションに用いる、各テーマ毎（呼吸不全、腹痛、SSI、外傷、アナフェラキシーなど）の事前学習資料やシナリオを作成した。</p>
<p>2. 患者急変対応コース for nurese</p>	<p>2008年</p>	<p>患者の容態変化を素早くキャッチできる看護師を育てるための教育コースを開催し、そのガイドブックを作成した。</p>
<p>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>1. 日本医学教育学会「救急医療における状況再現型シュミレーション教育の試み」</p>	<p>2005年5月</p>	<p>当科におけるシュミレーション教育の取り組みを紹介。</p>
<p>2. 日本救急医学会「救命センターにおけ</p>	<p>2005年10月</p>	<p>当科におけるシュミレーション教育の取り組み</p>

	るタスク遂行能力向上プログラム」		
3.	日本救急医学会関東地方会「状況再現型シュミレーションを用いた臨床研修カリキュラム」	2006年2月	を紹介。 当科におけるシュミレーション教育を取り入れた研修医教育カリキュラムを紹介。
4.	日本腹部救急医学会「腹部救急疾患を対象としたタスク遂行型能力向上プログラム」	2006年3月	腹部救急疾患のシナリオを用いたシュミレーションを紹介。
5.	日本臨床救急医学会「状況再現型シュミレーションを用いた臨床研修カリキュラム」	2006年5月	当科におけるシュミレーション教育を取り入れた研修医教育カリキュラムを紹介。
6.	日本外傷学会「外傷初期診療に対する状況再現型シュミレーション教育」	2006年5月	外傷初期診療に対する院内でのシュミレーション教育を紹介。
7.	日本医学教育学会「救急医療における状況再現型シュミレーションを用いた臨床研修カリキュラム」	2006年7月	当科におけるシュミレーション教育を取り入れた研修医教育カリキュラムを紹介。
8.	日本救急医学会「Crisis Resource Managemet (CRM) としての医療者教育技法 - 救急専従医を対象としたモデルコース - 」	2006年10月	救急専従医を養成するプログラムを作成し、その取り組みを発表。
9.	7th annual International Meeting on Simulation in Healthcare “Three-step approach” module of Simulation-based Medical Learning in Emergency Medicine-SimClub experience-	2007年1月	シュミレーションのシナリオを工夫することにより、教育効果があがる可能性について発表。
10.	日本救急医学会「我々が工夫した「スパイラルトレーニング」でできる研修医を養成する」	2007年10月	事前学習、スキルトレーニング、状況再現型シュミレーション、ビデオを用いた On the job training とスパイラル状に積み上げていくことにより診療能力の向上をはかる研修医教育プログラムを発表。
11.	SimExpo「研修医・レジデント塾」 Surgical Site Infection (SSI) のシュミレーション学習プログラム」	2007年11月	研修医、レジデントに対し、SSI、敗血症について学習できるプログラムを作成し、発表。
12.	医療の質と安全学会「Surgical Site Infection (SSI) のシュミレーション学習プログラム」	2007年11月	SSIの学習プログラムを作成し、発表。
13.	日本外科感染症学会「Surgical Site Infection (SSI) のシュミレーション	2007年11月	SSIの学習プログラムを作成し、発表。

学習プログラム]		
14. 日本救急医学会「Surgical Site Infection (SSI) のシミュレーション学習プログラム～感染予防教育に対する我々の取り組み～」	2008年10月	SSIの学習プログラムを作成し、そのアンケート結果を発表。
15. 日本救急医学会「当救命センターにおける救急初療チームの教育と訓練法」	2008年10月	初療チームトレーニングの手法についてビデオを用いて発表。
16. 急性期治療フォーラム「当救命センターにおける救急初療チームの教育と訓練法」	2008年11月	初療チームトレーニングの手法についてビデオを用いて発表。
17. 日本医療教授学会「救センターにおける Workplace Based Simulation」	2009年2月	院内の指導医がシミュレーションと On the job training のファシリテーターとしての役割を果たすことにより、教育効果が高まる可能性について発表。
18. 日本医療教授学会「当救命センターにおける初療チームトレーニング」	2009年2月	初療トレーニングの手法について発表。
19. 日本救急医学会関東地方会「当救急センターにおける初療チームトレーニング」	2009年2月	初療トレーニングの手法について発表。

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院救急医療科	教授	池上 敬一	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1981年9月～現在	日本外科学会員		
1981年12月～現在	日本救急医学会員		
1991年5月～現在	日本熱傷学会員		
1995年12月～現在	日本外傷学会員		
1997年5月～現在	日本中毒学会員		
1998年1月～現在	日本臨床救急医学会員		
2000年4月～現在	日本医学教育学会員		
2008年6月～現在	日本医療教授システム学会員		
2008年9月～現在	日本蘇生学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>池上敬一</u> ：毒素性ショック症候群毒素-1 (TSST-1) とその関連疾患. 先端医療シリーズ 27 救急医療 救急医療の最先端. 島崎修次, 山本保博, 相川直樹編, pp368-372, 先端医療技術研究所, 東京, 2004.			
2. <u>池上敬一</u> ：電氣的除細動. TODAY'S THERAPY2005 今日の治療指針 私はこう治療している. 山口徹, 北原光夫編, p66, 株式会社医学書院, 東京, 2005.			
3. 永井春美, <u>池上敬一</u> ：転院. 救急羅針盤 これがすべてだ救急医療. 太田祥一編, pp206-223, 株式会社荘道社, 東京, 2005.			
4. <u>池上敬一</u> ：2. ショック. 救急研修標準テキスト. 島崎修次, 浅井康文, 有賀徹, 杉本壽, 前川剛志, 益子邦洋, 行岡哲男編, pp268-274, 株式会社医学書院, 東京, 2005.			
5. 杉木大輔, <u>池上敬一</u> ：重症患者に対する感染対策. 坂田育弘編著, ナースのための救急・集中治療, メディカ出版, 2006.			
6. <u>池上敬一</u> , 浅香えみ子：患者急変対応コース, 中山書店, 東京, 2008.			
7. <u>池上敬一</u> ：侵襲と生体反応. 標準救急医学, 日本救急医学会編, pp26-44, 医学書院, 2009.			
【原 著】			
欧文			
1. Yasumura K, <u>Ikegami K</u> , Kamohara T, Nohara Y: High incidence of ischemic necrosis of the gluteal muscle after transcatheter angiographic embolization for severe pelvic fracture. The Journal of TRAUMA Injury, Infection, and Critical Care 58: 985-990, 2005.			
2. Togawa S, Yamami N, Nakayama H, Mano Y, <u>Ikegami K</u> , Ozeki S: The validity of the mangled extremity severity score in the assessment of upper limb injuries. THE JOURNAL OF BONE AND JOINT SURGERY BRITISH VOLUME			

87 : 1516-1519, 2005.

和文

1. 蒲原隆, 山田浩二郎, 佐藤陽二, 池上敬一 : 当救命救急センターにおける多臓器不全に合併したDICに対する薬物治療の現状. バイオメディカル 14 : 79-82, 2004.
2. 池上敬一 : 救命救急センターにおける POS 実践の試み. 日本 POS 医療学会雑誌 10 : 101-105, 2005.
3. 杉木大輔, 池上敬一, 佐藤陽二, 山田浩二郎, 蒲原隆 : 当救命救急センターにおける経皮的心肺補助法 (PCPS) 施行症例の検討. 日本救急医学会関東地方会雑誌 26 : 104-105, 2005.
4. 毛利武弘, 池上敬一, 出口弘直, 斉藤光弘, 藤原亜津子, 蒲原隆 : 当救命救急センターにおける抗真菌薬投与症例に対する先行投与抗生物質の調査. 日本救急医学会関東地方会雑誌 26 : 128-129, 2005.
5. 山田浩二郎, 佐藤陽二, 杉木大輔, 池上敬一 : 重症患者における栄養パス導入前後での真菌感染症発生率の比較. バイオメディカル 16 : 109-113, 2006.
6. 井上卓也, 杉木大輔, 池上敬一, 上尾光弘, 上山昌史, 山下勝之, 織田順 : 喉頭損傷型気道熱傷に対する気管挿管適応基準. 日本救急医学会雑誌 190 : 262-271, 2008.

【症例報告】

和文

1. 井上卓也, 山田浩二郎, 杉木大輔, 宮之原利男, 岩下寛子, 佐藤陽二, 池上敬一 : 高校生徒の心肺停止に対して高校職員がAEDを使用して救命した1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 28 : 84-85, 2007.
2. 田中純哉, 井上卓也, 杉木大輔, 岩下寛子, 山田浩二郎, 宮之原利男, 池上敬一 : 妊娠中に肺動静脈奇形により重篤な意識障害を来した1例. 日本救急医学会雑誌 18 : 665-670, 2007.

【総説】

和文

1. 山田浩二郎, 池上敬一 : 「Surviving Sepsis Campaignガイドライン」はこう見る Fluid therapy, Vasopressors, Inotropic therapy. 救急医学 28 : 1109-1113, 2004.
2. 山田浩二郎, 池上敬一 : 【ショック 病態の理解と治療方針】 臨床編 各種ショックに伴う臓器障害とその対策 ショックに伴う免疫機能の低下とその対策. 救急医学 29 : 83-86, 2005.
3. 池上敬一 : ショックの病態生理. 救急・集中治療 大きく転換するショック治療—ケーススタディとQ&A— 17 : 241-249, 2005.
4. 池上敬一 : 深在性真菌症と (1→3) - β -D-グルカン値測定の意義. 日本集中治療医学会雑誌 14 : 522-523, 2007.

【その他】

和文

1. 池上敬一 : 第31回日本救急医学会総会教育講演「救急集中治療領域における抗真菌薬の適正使用と新たな展望」への座長コメント. Medical Tribune 37 : 28-29, 2004.
2. 佐藤陽二, 池上敬一 : 救急車内でのモニター機器のコードレス化への試み—新しい心電図導入方法の開発—. 救急救命 7 : 26-28, 2004.

3. 池上敬一：「問題解決型医療」から「課題達成型医療」へ。Emergency Nursing 17：巻頭, 2004.
4. 田口博一, 池上敬一：Q&A 気道・呼吸管理. 救急・集中治療 16：667-670, 2004.
5. 池上敬一：救急医療従事者のためのE BM講座 レッスン1 EBMは医療サービスの質向上の手法. 救急医療ジャーナル 12：40-44, 2004.
6. 池上敬一：埼玉県東部地域救急フェスタのご報告. 越谷市医師会会報 43：62-63, 2005.
7. 池上敬一：PDCAサイクルとSDCAサイクルを使い分ける. 救急医療ジャーナル 13：68-73, 2005.
8. 池上敬一, 田辺博美, 梶山菜都美：PAD時代の市民教育—中学生から始める救急医療教育—. 救急医療ジャーナル 13：6-7, 2005.
9. 池上敬一：メディカルコントロールの諸問題とメディカルディレクターのあり方「メディカルコントロールにかかわる医師研修セミナー：ワークショップ」から. 救急医療ジャーナル 13：12-19, 2005.
10. 池上敬一：救急医療従事者のためのE BM講座 レッスン4 「データ」を収集し、「情報」を引き出すということ。救急医療ジャーナル 13：50-55, 2005.
11. 池上敬一：救急医療従事者のためのE BM講座 レッスン5 QC手法としての臨床研究. 救急医療ジャーナル 13：67-71, 2005.
12. 池上敬一：米国におけるシミュレーション教育の現状. 救急・集中治療 17：1099-1102, 2005.
13. 池上敬一：救急医療従事者のためのE BM講座 レッスン6 QC手法としての臨床研究. 救急医療ジャーナル 13：38-42, 2005.
14. 池上敬一：救急医療従事者のためのEBM講座 レッスン7 QC手法としての臨床研究. 救急医療ジャーナル 14：56-59, 2006.
15. 池上敬一：救急医療従事者のためのEBM講座 レッスン8 QC手法としての臨床研究. 救急医療ジャーナル 14：50-54, 2006.
16. 池上敬一：埼玉県医師会BLS (AEDを用いた一次救命処置) プログラムについて. 埼玉県医師会誌 674:36-37, 2006.
17. 池上敬一：救急医療従事者のためのEBM講座 レッスン9 QC手法としての臨床研究. 救急医療ジャーナル 14：56-59, 2006.
18. 池上敬一：救急医療従事者のためのEBM講座 レッスン10 QC手法としての臨床研究. 救急医療ジャーナル 14：43-47, 2006.
19. 池上敬一：救急医療従事者のためのEBM講座 レッスン12 QC手法としての臨床研究 医療プロフェッショナルと成人学習. 救急医療ジャーナル 15：58-61, 2007.
20. 池上敬一：シミュレーション医療教育 第1回救命救急・日米シミュレーション医学教育合同シンポジウムより—新連載のキックオフとして. 救急医療ジャーナル 15：66-67, 2007.
21. 池上敬一：シミュレーション医療教育—事始. 救急医療ジャーナル 15：56-59, 2007.
22. 池上敬一：シミュレーション医療教育 第3回 BLS：シミュレーション医療教育のテンプレートとして. 救急医療ジャーナル 15：57-60, 2007.
23. 山田浩二郎, 池上敬一：メディカルコントロールの現状とこれから. EMERGENCY CARE 21：30-35, 2008.
24. 池上敬一：シミュレーション医療教育 第4回 シミュレーション医療教育を支えるサイエンス. 救急医療ジャーナル 16：52-55, 2008.
25. 池上敬一：シミュレーション・インストラクター. 救急医療ジャーナル 16：52-55, 2008.
26. 池上敬一：「従来の教育」と「できるようになる教育・訓練」の違い. 救急医療ジャーナル 16：48-51, 2008.

27. 池上敬一：医療安全全国共同行動における「急変時の迅速対応」の推奨項目. 医療安全 6 : 14-19, 2009.
28. 池上敬一：キャロルの時間モデル できるようになる教育・訓練を行うために. 救急医療ジャーナル 17 : 66-70, 2009.

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院救急医療科	准教授	山田 浩二郎	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1990年12月	日本外科学会認定医		
1991年1月	麻酔標榜医		
2005年12月	埼玉栃木 NST 研究会世話人		
2006年10月	日本 DMAT 隊員		
2007年7月	埼玉 DMAT 隊員		
2009年1月	日本救急医学会評議員		
2009年1月	日本臨床救急医学会評議員		
2009年4月	埼玉県東部地域メディカルコントロール協議会委員		
	インストラクター；日本外傷初期診療ガイドライン（JATEC）コース、日本病院前外傷教育プログラム（JPTEC）コース：関東世話人、AHA 成人心肺蘇生法コース（ACLS）、AHA 基礎心肺蘇生法コース（BLS）、AHA 小児心肺蘇生法コース（PALS）		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. 蒲原隆, <u>山田浩二郎</u> , 佐藤陽二, 池上敬一：当救命救急センターにおける多臓器不全に合併したDICに対する薬物治療の現状. バイオメディカル 14：79-82, 2004.			
2. 杉木大輔, 池上敬一, 佐藤陽二, <u>山田浩二郎</u> , 蒲原隆：当救命救急センターにおける経皮的心肺補助法（PCPS）施行症例の検討. 日本救急医学会関東地方会雑誌 26：104-105 2005.			
3. <u>山田浩二郎</u> , 佐藤陽二, 杉木大輔, 池上敬一：重症患者における栄養パス導入前後での真菌感染症発生率の比較. バイオメディカル 16:109-114, 2006.			
【症例報告】			
和文			
1. 中司峰生, <u>山田浩二郎</u> , 池上敬一：最近経験した破傷風の2例. 日救医関東誌 24: 112-113, 2004.			
2. 井上卓也, <u>山田浩二郎</u> , 杉木大輔, 宮之原利男, 岩下寛子, 佐藤陽二, 池上敬一：高校生徒の心肺停止に対して高校職員がAEDを使用して救命した1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 28：84-85 2007.			
3. 田中純哉, 井上卓也, 杉木大輔, 岩下寛子, <u>山田浩二郎</u> , 宮之原利男, 池上敬一：妊娠中に肺動静脈奇形により重篤な意識障害を来した1例. 日救急医学会誌 8: 665-670, 2007.			

【総 説】

和文

1. 山田浩二郎, 池上敬一: 「Surviving Sepsis Campaignガイドライン」はこう見る Fluid therapy, Vasopressors, Inotropic therapy. 救急医学 28:1109-1113, 2004.
2. 山田浩二郎, 池上敬一: 【ショック 病態の理解と治療方針】 臨床編 各種ショックに伴う臓器障害とその対策 ショックに伴う免疫機能の低下とその対策. 救急医学 29:83-86, 2005.
3. 山田浩二郎, 佐藤陽二, 池上敬一: 中毒診療の支援 急性薬物中毒のクリニカルパス. 救急・集中治療 19:527-532, 2007.
4. 山田浩二郎, 池上敬一: メディカルコントロールの現状とこれから. EMERGENCY CARE 21:142-147, 2008.

【その他】

和文

1. 山田浩二郎: 抗うつ薬中毒. 今日の治療指針 46 版 医学書院, pp112-113, 2004.
2. 山田浩二郎: 有機リン・カーバメイト中毒. 今日の治療指針 50 版 医学書院, pp111-112, 2008.

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院救急医療科	講師	杉木 大輔	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1997年11月～現在	日本外科学会員		
2001年2月～現在	日本救急医学会会員		
2002年6月～現在	日本IVR学会会員		
2002年12月～現在	日本医学放射線学会会員		
2004年3月～現在	日本外傷学会会員		
2005年3月～現在	日本臨床救急医学会会員		
2006年3月～現在	日本腹部救急医学会会員		
2006年7月～現在	日本医学教育学会会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
和文			
【著書】			
和文			
1. <u>杉木大輔</u> , 池上敬一：重症患者に対する感染対策. 坂田育弘編著, ナースのための救急・集中治療, メディカ出版, 2006.			
【原著】			
和文			
1. <u>杉木大輔</u> , 池上敬一, 佐藤陽二, 山田浩二郎, 蒲原隆：当救命救急センターにおける経皮的心肺補助法（PCPS）施行症例の検討, 日本救急医学会関東地方会雑誌, 26：104-105, 2005.			
2. 山田浩二郎, 佐藤陽二, <u>杉木大輔</u> , 池上敬一：重症患者における栄養パス導入前後での真菌感染発生率の比較, バイオメディカル, 16：109-113, 2006.			
3. 井上卓也, <u>杉木大輔</u> , 池上敬一, 上尾光弘, 上山昌史, 山下勝之, 織田順：喉頭損傷型気道熱傷に対する気管挿管適応基準. 日本救急医学会雑誌 190：262-271, 2008.			
【症例報告】			
和文			
1. 飯室護, <u>杉木大輔</u> , 岡山絢, 川島美穂, 古田雅也, 野崎美和子, 桑山肇, 奥山隆, 山口真彦：高度肝転移をともなう進行胃癌の1例, 治療法を中心に, 消化器の臨床(1344-3070) 7：546-550, 2004.			
2. 井上卓也, 山田浩二郎, <u>杉木大輔</u> , 宮之原利男, 岩下寛子, 佐藤陽二, 池上敬一：高校生徒の心肺停止に対して高校職員がAEDを使用して救命した1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 28：84-85, 2007.			
3. 田中純哉, 井上卓也, <u>杉木大輔</u> , 岩下寛子, 山田浩二郎, 宮之原利男, 池上敬一：妊娠中に肺動静脈奇形により重篤な意識障害を来した1例. 日本救急医学会雑誌 18：665-670, 2007.			

【総 説】

和文

1. 飯室護, 杉木大輔, 岡山絢, 川島美穂, 古田雅也, 野崎美和子, 鈴木一義, 桑山肇: 腹部単純CTから診断する上腸間膜動脈塞栓症. 消化器の臨床 7 : 294-296, 2004.
2. 飯室護, 岩崎功明, 川島美穂, 古田雅也, 野崎美和子, 遠田譲, 椎名徳彦, 諏訪和明, 杉木大輔, 高橋盛男, 桑山肇: I V Rを用いた消化管出血に対する診断と止血術—特に内視鏡的診断・止血術が困難な十二指腸球部以深および小腸出血を中心に—. 消化器内視鏡 17 : 1963-1966, 2005.
3. 井上卓也, 杉木大輔: 心肺停止、ショック、多臓器不全症候群. DOKKYOJOURNAL OF MEDICAL SCIENCES 34 : 273-280, 2007.
4. 井上卓也, 杉木大輔: 気道熱傷の病態と分類. Q & Aとケーススタディで学ぶ重症熱傷の初期診療 総合医学社 19 : 1083-1088, 2007.

【そ の 他】